江戸時代の岐阜町

覓　真理子
（岐阜市歴史博物館学芸員）

今回は、これまでたびたび触れてきた江戸時代の岐阜町について詳しく紹介します。

江戸時代の岐阜町はほぼ現在の金華地区に当たり、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原合戦までの城下町と重なりますが、細かく見るといくつか異なる点があります。岐阜城は関ヶ原合戦後に廃されたため、家臣団が住んでいた区画は空き地となりました。その空き地から生まれた村の一つが、町の西出入り口付近を中心とする明屋敷村です。この村はかなり複雑で、岐阜町の内部にも五ヵ所の飛び地を持っていました。「下之屋敷」「斎藤屋敷」という小字などが含まれており、合戦後にできた旧武家屋敷の空き地のうち、町の西端部と周縁部を一村としてまとめたと思われます。もう一つの村が稲葉山（金華山）ふもとの古屋敷新田です。ここはしばらく空き地のまま温存されていましたが、明暦元年（一六五五）には新たに茶屋町・木挽町など四町が取り立てられ、こののち寺院の新設や畑地の開墾などが進んでいきました。

町北部の中河原新田は、岐阜町への物資輸送の要である川湊へと続く地域ですが、ここも一七世紀中ごろにはかなり町並みが形作られていました。関ヶ原合戦後には明屋敷村だけが行政的に独立した村で、古屋敷・中河原は旧城下町の岐阜町に付属して扱われていました。しかし、元禄八年（一六九五）に岐阜奉行が新たに設置されたとき、古屋敷・中河原も村方として町とは別扱いになります。

岐阜奉行が創設されて以後の岐阜町は、土塁で囲まれ、長良川と水路で守られた区画内に原設六ヶ所の飛び地を持つ長屋敷と散在する明屋敷村の区域を除いた部分に、メインロードの米屋町筋から南部へ続く上・下笹土居町を加えた、ごく狭い地域でした。人口は、一八世紀中ごろで五二九九人です（同時期の加納町は約三二〇〇人）。このうち、かつての下笹土居町（現在の笹土居町）は金華地区に含まれていません。岐阜町南部は今泉村・小熊村、西部は忠節村に続いていました。

図1　岐阜町鳥瞰図

しかし、行政的には町と村に分かれていたとはいえ、実際には家並みは一続きになっていました。貞享三年（一六八六）・寛保三年（一七四三）の大火の被害は、岐阜町はもとより古屋敷・明屋敷・忠節・今泉へも広がっており、岐阜町周辺が一つの拡大町域となっていたことがうかがえます。

その町並みのようすを具体的に知ることができる絵が、伊奈波神社社宝にあります（図1）。昭和三年発行の『岐阜市史』に掲載されていますが、六年前に伊奈波神社から社宝をまとめて御寄託いただいたときに初めて原本を目にして、小躍りするほど嬉しかったものです。

北を左にして、稲葉山ふもとに広がる岐阜町と中河原などの町並みが細かく描かれ、野山に草色、川と空に水色が淡く着色されています。二艘の舟が浮かぶ長良川は左下で二つに分流し、対岸の長良の町並みも見えます。町の南端は家屋が密集している区画までですが、町並みはそこからあふれ出し、三本の家並みが並んでいます。最も長いのが笹土居町で、その上（東）には東別院、下部には今泉村の美江寺が描かれます。川に沿って斜めに伸びるのは明屋敷村から忠節村の家並みです。もちろん伊奈波神社もあり、参道には善光寺が特徴ある姿を見せています。その脇には岐阜奉行所が描かれ、門や瓦ぶきの主屋、同心の長屋があるのがわかります。みっしりと家が建ち並ぶ姿からは、岐阜町の繁栄を想像することができるでしょう。筆者は尾張藩士の小田切春江ではないかと思われます。

江戸時代の岐阜町を、稲葉山からながめた記録もあります。享保二年（一七一七）に来岐した尾張藩士、朝日重章は日記におよそ次のようにしるしています。「北には長良川が三派に分かれて流れ、末でまた一つとなる。南には海が遥かに望める。木曽川は眼下にあり、加納も残らず見える。岐阜町は掌中にあるようによくわかる。東西の町筋は右から大桑町筋・中島筋・本町筋。南北の町筋は東材木町筋・西材木町筋・今町筋」。中島筋とあるのは新町筋のことです。図1で稲葉山には二本の登山道が記入されていますが、そのうち左の百曲道から町中に続くのが大桑町筋、右の七曲道から続くのが本町筋、両者の中間が新町筋です。南北の主要道は、本町筋から北の部分に下（西）から西材木町筋・東材木町筋・今町筋で、その上にある二筋は古屋敷の家並みです。西材木町筋は南に続き、奉行所の前を通って行きます。いずれも、同じ向きの屋根が道に添って連なり、くっきりと際だって見えます。

朝日重章が稲葉山上からながめた町筋は現在でも岐阜城から確認できますが、図1はいったいどこから見て描かれたのでしょうか。岐阜町を描くには本図のように稲葉山を奥に配置するのが最適でしょうが、このように町を観察できる場所は思い当たりません。おそらく、町の平面図や山上で見た景色をもとに、空を飛ぶ鳥の心になって再構成したものと考えられます。

伊奈波神社参道と奉行所